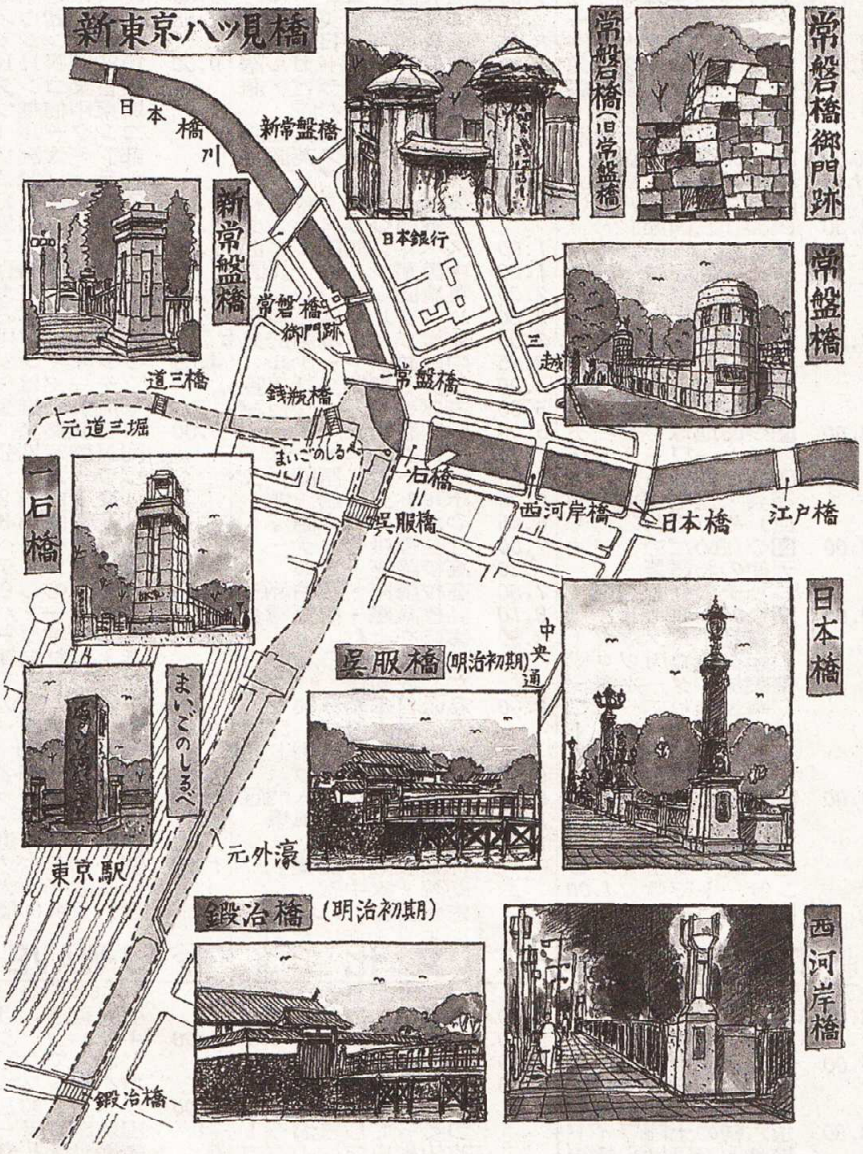
2013年9月21日
朝日新聞

日本橋今昔

③新東京八ツ見橋

江戸の絶景を心眼で見る

東京駅八重洲口から北へ600メートル。江戸時代、日本橋川の一石橋から北を眺めると常盤橋御門の常盤橋（現常磐橋）。東に日本橋と江戸橋。南には呉服橋と鍛冶橋。西にある道三堀には銭瓶橋と道三橋が見え、彼方に富士がそびえる絶景を展望できた。広重の「名所江戸百景」や、斎藤月岑の「江戸名所図会」で紹介された名勝「江戸八ツ見のはし」である。

150年たち、八重洲の北から南へ水をたたえた外濠は埋め立てられて外堀通りとなり、道三堀とその橋も今はない。しかし一石橋に立つと、北の常磐橋は東日本大震災を何とか生き残り、常盤橋と新常盤橋とで都合三つの「ときわはし」がある。東は江戸橋が首都高速の高架で隠された代わりに、日本橋の手前に西河岸橋が見える。南に橋があった場所には呉服橋と鍛冶橋交差点の案内板がある。私の心眼には「新東京八ツ見橋」の風景が見えた。

（建築家・画家　木下栄三）